

# TYO



## 今期大幅上方修正へ グループ企業20社超

### アニメ大手をグループ化

ティール・ワイ・オー（TYO、4358・ジャスダック）の株価が大きく居所を変えている。先月末にマックガイデン（東証マザーズ上場）と業務提携・資本参加を発表、7月からは1単元の株式を1000株から500株に変更し、流動性と投資家層の拡大を図る。今月に入ると今

9月期の連結中間期予想を大幅に増額修正。経常利益を当初計画に対して2倍の3億9000万円に増額、最終損益を6500万円の赤字見通しから9000万円の黒字転換に上方修正した。株価はこうした好材料に敏感に反応し、2年前の上場初値430円を視野に入

アニメ作品を世に送り出しているが、内容がよりにきているが、内容を吟味して絞り込んでいく。今期は特別損失の過年度役員退職慰労金6000万円がなくなるほか、エムニメディアのノウハウを任を引き受けることになり、慎重にならざるを得ない。それでも今期は1億円の増益をTYOグループのリソース（事業、経営、資金）と融合させ、新しいコンテンツづくりをする。今期の連結中間期は増額修正したが、通期見通しは変更していない。売上・再来期は売上高216億円になる。この会社は年間売上高15億円、経常利益1億1200万円（前期比13・6%増）、経常利益が最低ラインになるだろう。中期経営計画を1年前倒しで達成するペースで進んでいる。ちなみに3月末の株主数は2062人を数え、東証上場も増）、純利益5000万円（同61・3%増）のままでいる。

4億円（同57・5%増）、純利益5000万円（同61・3%増）のままでいる。だが、第3四半期が終了する夏ごろには大幅な上方修正に進むのが間違いないと見られる。損益面では前期に比べて、吉田社長が見聞するが損失を計上したことから、税効果会計により8000万円がマイナスと

常利益1億円程度の力は十分ある。取得金額1億2600万円は合理的な水準で、サクソフィルムズやネクシスコミニケーションと同様に売上、利益ともTYOの下期連結業績に加味されていない。M&A（企業の合併・買収）の案件は毎週の